

### ステップ② シンプルな暮らし—身軽になろう 不要品を片付けはじめた高齢者 倉の遺産を子にも残さないために

物を大切に扱われ、もったいない精神を植えられた世代において、昨今の断捨離ブームに共感する人も少なくないでしょう。潮め込んでいた物を捨て、スッキリするのには時間がかかってもいい。それからもっと人生を充実させ、楽しい日々を生きたために、身の回りの物の整理する人がいます。

岐阜県の古倉に夫婦2人暮らし長谷川節子さん(仮名・90)、藤付きの平屋を暮らしはじめたのは10年前で、長男の藤正さんが結婚すると、両親は蔵の2階をリフォームし、そこで暮らすようになった。

「この間親がなくなったのははるか昔ですが、2人が残っていた家財や衣服、書物、書類など、すべて処分しなすまま放置してきました。というの、蔵は元々お金の蓄積の生活だった関係で、(ここでは)暮らしていく上支障がないから、とくに気にすることもなかった。いろいろ片付けなければならぬという必要を感じたので、かかっていたものを整理の場合に片付けました。その後、お孫さんにも勧めました。」

その前から引つ越しをリサイクルショップを経営していますが、今から10年以上前、たまたま雑誌から「遺産整理は大変」という記事を読みました。当時はそのことと関係する専門会社がなかったことから、それなら自分がやってみよう」と、遺産整理専門会社「キーパース」を設立しました。今では全国にいくつもの支店を置くまでになりました。今ではさらに事前整理の依頼にも応じています。

1 遺産整理会社での活動だけでなく、その事業の特性からいまでは講演依頼も多いようです。お孫さんご自身で遺産整理をしてきたらと思います。故人の家、部屋を何かが見ている。いろいろな見えてくるものがあります。その人の性格や趣味、家族や友人関係、どんな食べ物が好きであったかなどですが、お孫さんご自身で故人であるのも物陰が掛かるのです。1(1)で事前整理の依頼は増えているのでしょうか。件数的にはまだ事前整理の依頼はまだ少ないのですが、徐々に増えています。でも、同時に遺産整理の依頼が多いのです。

上がれない階に置いてあるものを整理したい。1(1)まで受けた事前整理の相談や実際に手がけた仕事で、特徴的な例を載せて

はい、いずれ息子家族と住むことを考え、母屋をリフォームしました。その際に玄関や居間などの物をいったんどこかへ移さなくてはならぬなり、蔵の2階はそれらを置く場所に使われなくなりました。リフォーム後もとにかく必要のないものはそのまま蔵に置いておきました。その間に不必要品やガラクタを置く大きな物置としていたのです。藤正さんは息子と娘がいましたが、2人とも結婚を遂げました。そのため、今の時点では同居の話は2人からかかってくるようになりました。その先駆けともいえる会社が今年設立10年目を迎えた「キーパース」(仮)です。社長は吉田太一さんだ。事前整理についてお聞きしました。

時代は21才が生んだ遺産整理・事前整理業専門会社のトップに聞く  
遺産整理・事前整理という仕事を専門に行う会社があることを知っていました。か、いまでも遺産整理には多くの企業が参入していますが、少し前まではほんの一握りしかありませんでした。その先駆けともいえる会社が今年設立10年目を迎えた「キーパース」(仮)です。社長は吉田太一さんだ。事前整理についてお聞きしました。

「お孫さんにはいますが、戸建てに一人で暮らすおばあちゃんからの相談です。以前は2階を自分の部屋にしていたのですが、足が重くなったため仕方なく1階で暮らすようになりました。2階にはもう10年以上上がっていません。2階のタンスの中には何が入っているかさえも、すでにさっぱり覚えていません。10年もの間にあるものがなくとも生活してこれたわけですから、基本的には2階に置いてあるものを整理して捨てるつもりでもいいわけですが、「いっぺん下にものを入れて何があつたか見て、必要のないものは自分の判断で整理をしたい」と相談されたのです。お孫さんに相談したときは内容を伝えずに済ませようかと、お孫さんにしてみれば、娘さんになつていただく、まだ置いておきたいものでも「何を言っているの、こたなの捨てなさい」といわれています。もうした中、藤正さんは昨年の歳を迎えたのを機に、急に蔵のものが気がなりはじめたといいますが、身体が動くうらんと、毎日午前中を蔵の2階に上がり、すべてを処分する作業を続けています。



キーパース(有) 代表取締役 吉田太一さん

1964年大阪市生まれ。28歳で軽トラックから1人で引越業を始める。以後、日本初の「70こしやさんのリサイクルショップ」を開業。2002年、「天国へのお引越し」®をキャッチフレーズとした日本初の遺産整理専門会社「キーパース」を設立。創業から約9000件に上る現場経験を生かし、最近深刻となっている「孤立死」の問題を解決すべく全国で講演活動を精力的に行っている。著書に「遺産整理は見た!」(扶桑社刊)、「おひとりさまでもだいじょうぶ」(ポプラ社刊)など多数。日本ベンクラブ会員。

「何か問題でもありませんか。娘さんの実家は子どもの目から見ると「コ」屋敷のようで、不衛生で仕方なく困っています。少し前までは家中に入れてくれたのに、今では玄関の口も開けてくれないようになってしまいました。事情がありました。本人がいらない間に強